

【問い合わせ】  
防災対策課 ☎ 57-8501



▲消火訓練に挑戦する吉川小学校児童

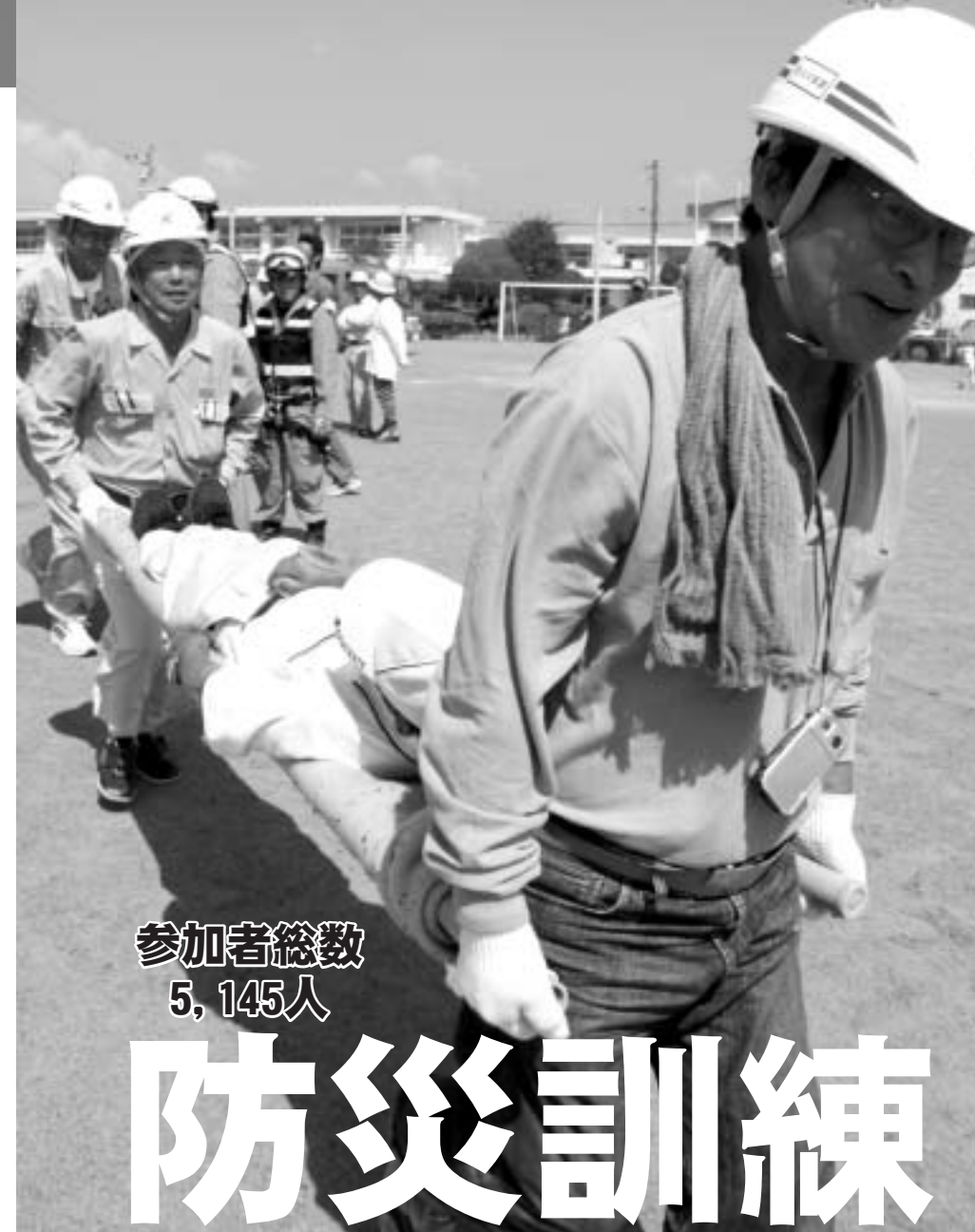


▲地域住民による倒壊家屋救出訓練

## 助け合いの力 地域を守る



▲吉川小学校の児童や吉川みどり保育所の園児らが、さまざまな訓練に挑戦！



参加者総数  
5,145人

# 防災訓練

### 主会場の吉川小学校 大人も子どもも真剣！

今年の主会場となった吉川町の吉川小学校。

訓練開始のサイレンが鳴ると近隣住民らは、整備されたばかりの小学校の避難階段を使って、屋上へ次々に避難しました。

会場では、倒壊家屋に人がいるとの想定で、消防署員の確な指示に従いながら、地元の消防団と自主防災組織9組織が救出訓練と応急手当訓練を真剣に取り組みました。また、高知駐屯地の自衛隊員は、自前の救助用資機材を使って、統制のとれた機敏な動きで救助に当たりました。



▲完成した避難階段を使って



▲避難名簿に名前を書いて



▲自衛隊員から装備品の説明を聞く児童たち



逃げ先案内の  
ゆっぴん

小学校屋上では、香南消防署と消防防災ヘリ「りょうま」による人命救助訓練が行われ、被災者役の地元住民2人を屋上から安全に搬送し、連携の取れた正確な行動で救助を行いました。

### 地域が支える組織づくり

各地域の自主防災組織の訓練は、市内の各組織ごとに行われ、避難訓練の後、防災資機材の点検や炊き出し訓練、応急手当の講習会などが実施されました。

昨年度末で自主防災組織率が100%になった赤岡地区では、各避難地へ425人が避難

### 災害協定を結んだ県外3市が参加！

今年1月に「市町村広域災害ネットワーク災害時相互応援に関する協定」を締結した8自治体の内、大阪府泉大津市と兵庫県高砂市、和歌山県橋本市の職員や消防士ら12人が、この日香南市に駆け付け、救援物資を搬送する訓練などで有事に備えました。

訓練では、約10分で設営できるエアテントで広域災害支援対策本部を立ち上げ、毛布や非常飲料水など救援物資を迅速に運び込みました。



### 地域を肌で感じ学ぶ！職員派遣研修

災害協定の実効性を高めるため大阪府泉大津市職員1人を8月24日～9月6日までの2週間受け入れました。

派遣された職員は、市内の地形などを事前に学んできており、研修中は、防災訓練の準備や、市内の避難場所などを見て回り、地域の実情などを肌で感じるなど積極的に活動していました。



▲泉大津市から派遣された中川雄介さん

し、各組織単位で独自の訓練を行いました。中でも城山高校グラウンドを避難地とした一本松・高見・横町4区自主防災会は、倒壊家屋からの救出訓練など、本格的な訓練に汗を流していました。また、消火栓の使い方やバケツリレーによる消火訓練などで、地域の団結を高めました。



▲倒壊家屋から救出した手作りの人形をタンカに乗せて搬送

### 危機意識高まる

9月6日(日)午前8時55分、自主防災組織や自治会を対象に、南海地震が発生したとの想定で、市総合防災訓練を行いました。

午前9時には、サイレンや防災無線により避難指示が発令され、住民らは全217力所の各避難場所へ避難。この日の訓練参加者数は消防団などを含め約5千人。自主防災組織数は昨年の63組織から76組織へと増え、地域の防災力は年々高まっています。



▲吉川小学校屋上から約40m上空へ救助者をつり上げ県消防防災ヘリで搬送する訓練



▲市が備蓄している災害用浄水器を試飲  
微細な不純物を取り除くことが可能で、泥水などもきれいな水に変身